

予算有限、人智無限

高部 英明

「坊主に成ろうとした人が馬に乗る練習から始めた」という笑い話がある。本人は「えらい坊主になると、多くの檀家を回らねばならない、すると馬に乗って弟子を引き連れ・・・」と考えて、まず馬乗りの練習から、となったとか。仏の道を学ぶことより馬の練習に夢中になったという、本質を見失った人間の滑稽さを笑った話である。

「守背理」という言葉がある。「剣」の言葉である。剣の構をいかに崩したとしても、その背後には剣の道の「理」があって変化があらねばならぬというわけである。この言葉、高校の時、万田という数学の先生が「数学においても守背理」として教えてくれた。「エエカッコ」して実践に臨めば真剣の世界では死を意味する。ところが、現実社会、研究者の世界を含めて勝負がはっきり見えないことが多々ある。

レーザー核融合を含む物理・工学の世界は深い。やればやるほど新しい世界が広がる。たとえ文部省がウン百億円くれずとも、我々が新しい世界を切り開くことを制限するものは何もない。唯一あるとすれば、それは、「金力」、「権力」に対する過度の依存であり、己の「人智」への限界観である。

福田元総理のおっしゃるように、日本は「資源有限」の国である。そんな中で「Laboratory of the World」となるための必要・充分条件とは何であろうか。大きな装置があれば言葉はいらない。黙っていても周りがちやほやしてくれる。しかし、大型予算は大型研究の必要条件であっても充分条件ではない。我々にとって充分条件とは何かを考え、人智をつくし、世界と渡り合っていくためにはどうすべきか、機会あるごとに皆さんと議論させていただきたいと思っています。

(参考)

「充分条件」・・・事項 A の成立を仮定して、それから事項 B の成立が理論的に導かれるとき、B を A の成立するための必要条件といい、逆に A を B の成立するための充分条件という。(岩波「広辞苑」より)